

愛媛県がん相談支援推進協議会の開催結果について

1. 会議名 平成26年度愛媛県がん相談支援推進協議会
2. 開催日時 平成26年11月21日（金） 14:00～15:30
3. 開催場所 愛媛県医師会館3階 医師連盟室
4. 出席者
 - ・委員：井上哲志、影浦ひとみ、亀井治人、菊内由貴、谷水正人、野河孝充、早瀬昌美、松本陽子
5. 次第
 - (1) 開会
 - (2) 医療対策課長あいさつ
 - (3) 会長あいさつ
 - (4) 議題
 - ・町なかがん患者サロン、患者・家族総合支援センターの活動実績・今後の活動内容の検討
 - ・小児がん
 - ・がん教育
 - ・就労支援
 - ・がん診療連携協議会がん相談支援専門部会からの報告
 - ・本県のがん相談支援や本協議会の今後のあり方

<会議概要>

（谷水会長）

まず、1枚目の谷水からの提出資料については、全体の相談支援の協議会の概略を載せている。今日もまず各委員から報告いただく。最初に町なかがん患者サロンの状況について、松本委員から説明願いたい。

（松本委員）

町なかがん患者サロンの平成25年度の事業実績は資料2ページのとおり、日々の相談等の活動に加え、一般市民向けのシンポジウムを開催した。26年度事業計画は3ページのとおり、南予地方へサロン事業を広げるということを柱としている。喜多医師会病院の協力を得られることは決まっており、出来れば12月中に一回目を開催。その後、月1回程度開催していきたい。4ページはこれまでの相談者の総数で、数字だけを見るとなかなか伸びていないのが課題としてある。ただ、一つ一つの事例を見ると、病院や家族の前では話せなかったことの相談が増えており、行きたいときに行けるという町なかサロンならではの当初掲げていた目的は達成しつつある。

（谷水会長）

数が増えていないとのことだが、こんなものだという事では。

（松本委員）

目標数があるわけではない。成功している高知県の例をみると何倍もの数字を出していることからすると…

（谷水会長）

需要はもう少しあるかもしれないと。

(松本委員)

そう。ただ、高知は医療相談に近いものをしており、私たちは医療相談は医師がいる場合のみお願いしており、あくまで気持ちの整理をしていただき、然るべきところへ連携することを目指している。単純に比較はできないものの、もう少し利用者が増えればとは思っている。

(井上委員)

町なかサロンの利用者が受診している医療機関は。

(松本委員)

集計はしていないが、教えてくださった方の数で言うと、四国がんセンターが多い。次いで県立中央病院。県中は帰る途中に寄る方が多い。

(井上委員)

数が目的ということではないが、いまは駐車場は不足していないか。

(松本委員)

1台分はあるが、あまり利用されていない。

(井上委員)

県立中央病院であれば、病院に駐車している間にちょっと寄れるが、他はどうだろうか。

(松本委員)

確かに駐車場のことも大きいと思う。ただ、実際にあった話で、県病院に行く途中のご家族が寄られ、毎日通うなかでサロンを見かけ何だろうかと思っていて、「ここは何をすところですか」と寄られ、入院している患者本人の前では弱音を吐けないため、「行き帰りに寄らせてください」と言われたことがある。それが大洲市の方で、退院して大洲に帰られる際に、「これからこういう場所がない」と残念がられたことが、南予地域で展開していこうと考えたきっかけ。

(谷水会長)

そういう意味では、少しいい空間というか利用できるスペースがあれば。今、県立中央はいい環境になった。相談支援センターの環境はどうなのだろうか。

(松本委員)

承知している範囲では、がんに関する外来が並んでいる辺りにオープンスペースでコーナーがあるが、現時点では図書等を並べている狭いスペースがあるだけで職員は常駐していない。

(谷水会長)

サロンはまた別の部屋にあるのか。

(松本委員)

他の部屋を借りてやっており、専用の部屋はない。

(亀井委員)

本当は各病院のサロンが答えるべきところ、わざわざ町なかサロンに行っている事例というのはどのような内容が多いのか。

(松本委員)

大別して2通りあり、一つは同じ悩みを持った人と話したいというもの。「すい臓がんの人はいませんか」といったピンポイントでの相談がある。基本的に、病院で話をしたくない、病院にサロンがあることを知らない。

(亀井委員)

町なかサロンを全県でやるのは難しいので、病院のサロンで頑張れるところを考えたい。

(早瀬委員)

両方が両方の入り口になって出入り自由という形になっていかないと、来てほしい人は来ないし、この人はこっちに行った方が良いのに辿り着けないといったことが生じる。町なかはこういう人、病院サロンはこういう人と振り分けることは困難。知ってもらい入口をあちこちに増やす、といったことに取り組み、とりあえずどこかに来てもらって、いろいろな情報を知ってもらおうということが必要ではないか。

(亀井委員)

医療者側が、こういう内容だったら町なかサロンに行ってみたら、と紹介できるような特色という立ち位置みたいなものがあれば。

(早瀬委員)

町なかサロンとしても、知ってもらい取組みが思うし、病院の方にも自院のサロンのことも含め、いろいろな窓口があることを紹介してもらえれば。患者は常に初めて経験することなので、サロン等のことを何年も知らないままにいることもある。

(松本委員)

私たちの特徴は、ピアサポーターがいて一緒に泣いたり笑ったりできることで、ここが明らかに病院とは全く異なるところ。医療の専門的なことは病院の相談窓口で聞かなければ解決できない。そこの連携は大切。

(谷水会長)

次に、井上委員からがんの子どもを守る会の活動について。

(井上委員)

まず、11月15、16日で松山市医師会館において、公益財団法人がんの子どもを守る会の「第2回中国・四国支部合同交流会」を開催した。支部があるのは愛媛のほかには高知と香川、岡山、広島。今回の開催にあたって、小児がん中国・四国ネットワークの先生方のご参加もいただいている。全国の課題と、中・四国の課題は異なるかもしれないといったことがあり、第1回はちょうど広島大学病院が小児がん拠点病院となったこともあり広島で、第2回は愛媛でということになったもの。内容は講演やパネルディスカッション。相談事業を中心にこんなことが出来たらといったものがあるが、個人情報の問題があって、いま現に闘病中の患者さんの声を聞くことができないという現状をどういうふうに打破していったらいいのかという点でいろいろアイデアが出た。また、支部がない4県(徳島、島根、鳥取、山口)に対してどう手を差し伸べるかという点も話し合った。

2つ目は、今後の予定の紹介とお願い。2015年の4月に日本医学会総会で小児がんに関するテーマになっている。各支部でネット中継が出来る会場を確保すれば、そこでリアルタイムで質問も出来たりする。適当な会場はないだろうか。

(松本委員)

どういう人の参加を想定しておられるかにもよるが、県立中央病院などはどうか。

(谷水会長)

Webがつながる環境があれば、どこでも可能だと思う。

(松本委員)

県か市の医師会館では。

(井上委員)

今後相談してみる。

(菊内委員)

患者・家族総合支援センターの活動のうち、学びのひろばの本に関しては県立図書館の協力を得ている。6月28日より土曜日の開館を実現させたこともあり、そのPRも兼ねて絵本や図書情報に関するセミナーを27年2月21日土曜日に企画している。

愛媛労働局と協働の就職支援モデル事業については、引き続き活動しており、全国と比較すると相談件数等の活動状況は活発である。

その他、今年度はサロンの種類やセクシャリティについて等、活動の範囲を拡大しているところである。

当院の企画のみでなく、愛媛県内で企画されるがん関連のセミナーやイベントの情報を集約し、患者・家族総合支援センターのホームページに掲載できる仕組みを整備中である。現在、がん診療連携拠点病院のメーリングリストに流れた情報は、自動的に患者・家族総合支援センターホームページの活動カレンダーに掲載するシステムは構築できている。しかし、拠点病院関連以外でも、県内でがん関連イベント・セミナーを企画運営しているところは複数あるため、集約窓口整備を進めている。

(谷水会長)

センターについても、周知が今後の課題だと認識している。

(菊内委員)

利用者からの評価は高いが、当院の患者であっても施設の存在を知らない場合がある。

(早瀬委員)

町なかサロンと同様、どうやって知ってもらうかを考えるべき。

(谷水会長)

がん教育について、事務局から説明願いたい。

(事務局)

平成25年3月に策定された「愛媛県がん対策推進計画」で、分野別目標として「がんの教育・普及啓発」を新たに加えた。

この一環として、愛媛県教育委員会では、国のモデル事業を活用して今年度から「がん教育推進事業」を実施しているので、把握している範囲で簡単に御紹介する。

内容は、資料26ページのとおり、がんの専門医やがん患者・経験者を講師として、小中学校、高校等に派遣し、児童生徒対象の講演会あるいは、教職員対象の研修会を実施しようとするもの。

今年度は初年度ということで、この事業を実施するための検討・協議の場として「がん教育推進協議会」が設置され、8月に第1回会合が開かれた。

この場で、今年度は小学校1校、中学校3校、高校3校、特別支援学校1校で講演会または研修会を開催すること、2月に第2回協議会を開催、実施概要を今年度中に他の学校にも紹介する、などが決定された。この詳細については、27ページのとおり。

この事業のための検討会である「がん教育推進協議会」に、本協議会からも谷水会長、松本委員にご参画いただいている。お二人には講師の選定にあたっての関係者への呼びかけや、実際の学校での講演の方もお引き受けいただけるとのことで、大変お世話になった。

今後、2月に第2回の協議会を開き今年度の事業成果の検証等が行われ、現時点では来年度も国に応募するつもりとのことなので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(谷水会長)

がん教育は愛媛大学でも行っていると聞いている。

(早瀬委員)

教育は内容のレベル合せが必要だと考える。どうかと思う内容のものもあるし、今までの保健体育の一環としてのがん教育とは違うものが求められている。内容はよく検討したうえで、各講師が共有してもらいたい。数が多ければよいものではなく、最低限のラインといったものが必要。

(谷水会長)

現状ではそういったものは設定できていない。講師によってバラバラの対応になっている。教育委員会の事務局にモデルとなる教材を求めたが、ない。過去に使った事例となると、それを使って問題になったケースがあるとのことだった。

(松本委員)

がん教育に関しては、国においても議論の途中。国の方針がないなかで、各県が独自に取り組んでいる状況。協議会での議論の内容は、各学校には伝わっていない。

(谷水会長)

現時点では、設計が十分に出来ていない。

(亀井委員)

予防に関する内容だけになると、がんになったのは自業自得のようなイメージを植え付けかねない。

(谷水会長)

この事業で講師をする予定の方に、この点だけは押さえた話にして欲しいというメッセージを伝えることにする。

追補：本委員会後、教育講演の中には以下の3点を包含することを講師担当者に依頼した。

- 1) 「がんは、決して特別な病気ではありません」
- 2) 「がんは、怖いだけの病気ではありません」
- 3) 「みんなで『がんになっても安心して暮らしていける社会』をつくりましょう」

(松本委員)

おれんじの会が県から受託している「がん相談・情報提供支援事業」の一環で、今後、患者サロンと相談支援センターの連携に関して、実態調査等を行う予定。

(谷水会長)

愛媛県がん診療連携協議会の相談支援専門部会長である野河委員から。

(野河委員)

当専門部会は、情報提供や相談支援体制の強化や質的向上を目指しており、関係機関との情報共有や現状把握や課題の明確化、相談員の資質の向上等に取り組んでいる。今後は、県の委員会等とも連携を図っていきたい。

(谷水会長)

最後になるが、親会である「がん対策推進委員会」への責務を果たすため、これからのあり方について整理したい。相談支援に関する情報は非常に広範囲にわたっていることから、今後はワンストップサービスというか、ホームページでここを見ればすべて分かるというようなものの整備が必要。県民は県庁等の公的機関の情報を信頼すると思うので、必要な情報を一通り網羅した形で県のホームページを整理していったらどうか。

また、これからは予算の提案もしっかりしなければならないことも考えると、この協議会も6月、12月の2回開催が望ましい。そのうえで親会に報告し、親会でしっかり対応してもらうことが必要。

(松本委員)

ホームページに関して、他県ではよく考えられている事例もあるので、参考にしてもらいたい。

(谷水会長)

他になれば、これで議事を閉じる。